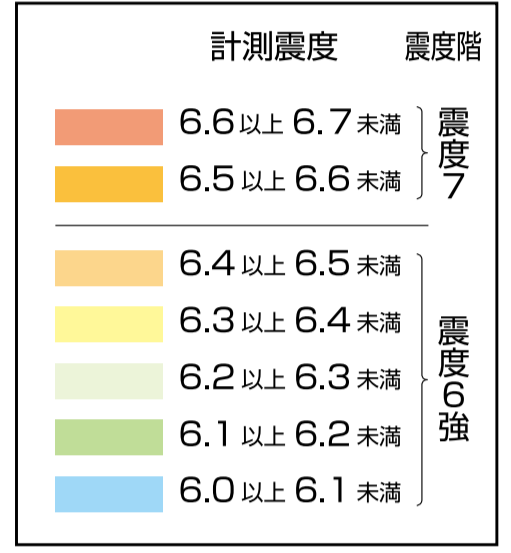


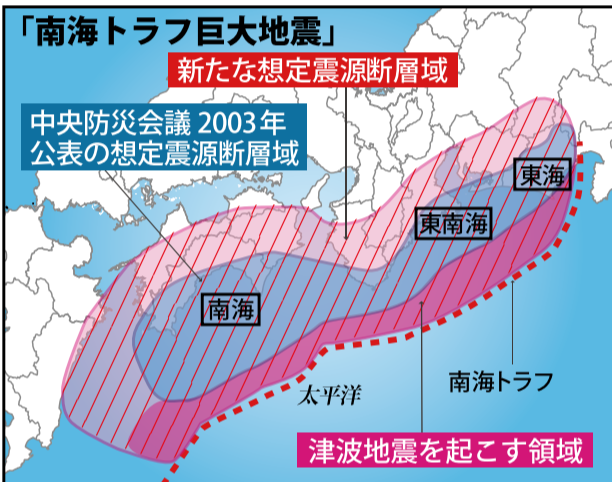
刈谷市地震ハザードマップ

震度予測

「南海トラフ巨大地震」が発生した場合を想定して、予測される最大級の震度分布を示した地図です。
震度予測は、平成24年8月29日に内閣府が公表した断層モデルのうち、刈谷市の震度が最大大きくなるケースについて、市独自で計算を行っています。
震度予測は、50mメッシュごとに行って、震度別に色分けをして表示しています。



刈谷市地震ハザードマップは、「南海トラフ巨大地震」(マグニチュード9クラス)が発生した場合に予想される震度など、防災に役立つ各種情報を示すものです。
震度及び液状化の予測情報は、内閣府が公表した断層モデルを刈谷市の地盤データ上に乗せ、計算したものであり、正確性・確実性を保証したものではありません。
地震の震源、深さ、規模及び地震発生時の潮位等の自然条件によっては、危険度が下がる場合もあり、また、反対に図上で危険が少ないと考えられる地域でも危険な状況になることも考えられます。



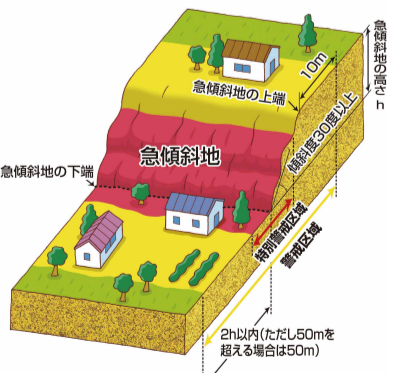
平成24年8月29日に内閣府が公表した被害想定における「南海トラフ巨大地震」の想定震源断層域(斜線部分)

「南海トラフ巨大地震」とは

- トラフとは、深さ6,000mまでの海底のくぼみを意味します。太平洋の水深約4,000mのくぼみである南海トラフは、海側のフィリピン海プレートが陸側のユーラシアプレートの下に潜り込む場所であり、静岡県駿河湾から九州にかけて伸びています。この南海トラフ沿いでは、過去にマグニチュード8クラスの東海地震、東南海地震、南海地震が概ね100年～150年おきに繰り返し起きています。この3つの地震の震源域を中心に広大な範囲が運動して発生する地震を「南海トラフ巨大地震」といいます。
- 「南海トラフ巨大地震」は、東日本大震災を教訓に、現時点の最新の科学的知見に基づき、最大クラスの地震を想定したもので、内閣府の公表では地震の規模を表すマグニチュードが最大9.0と推定されています。マグニチュード9.0は、東日本大震災と同規模の非常に大きな地震です。

土砂災害(急傾斜地の崩壊)

急傾斜地の崩壊
地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちる現象です。



土砂災害警戒区域及び特別警戒区域

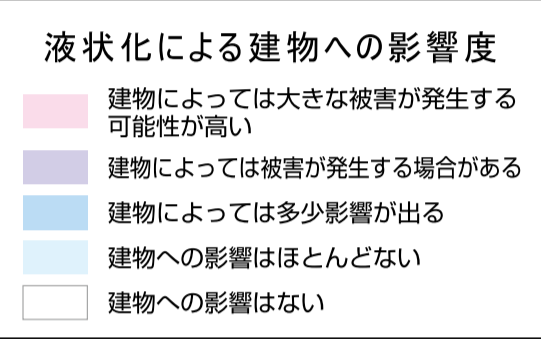
「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律(土砂災害防止法)」に基づき、要知照防止土砂災害の危険等が生じるおそれのある区域を指定したものです。

- 土砂災害警戒区域
急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがある区域です。
 - 土砂災害特別警戒区域
急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、建築物に損壊が生じ、住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがある区域です。
- ―― 特別警戒区域には、下記の項目が規制対象となります ――
- 特定開発行為に対する許可制
 - 建築物の構造規制
 - 建築物の移転等の勧告

「南海トラフ巨大地震」に備えよう

液状化予測

「南海トラフ巨大地震」が発生した場合を想定し、左記の震度予測と同様の断層モデルケースを用いて予測される液状化による建物への影響度の分布を50mメッシュで示した地図です。
「南海トラフ巨大地震」では地震の揺れが極めて大きく、また3分以上続くことが予想されており、市内全域で液状化の可能性がります。
揺れの時間が長いと液状化の程度が大きくなったり、液状化範囲が広がったりすることが予想されます。この図の建物への影響度の算出では、地震の揺れの長さ(継続時間)も考慮しています。



震度と揺れ等の状況

「気象庁震度階級解説図」より出典

7

● 耐震性の低い木造建築物は、壊れるものや、倒れるものが多くなる。
● 耐震性の高い木造建築物でも、壊れることがある。
● 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建築物は、倒れるものが多くなる。

6強

● 倒壊しないことができない、飛ばされることもある。
● 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多い。
● 耐震性の低い木造建築物は、壊れるものや、倒れるものが多い。
● 大きな地震揺れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。

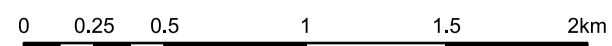
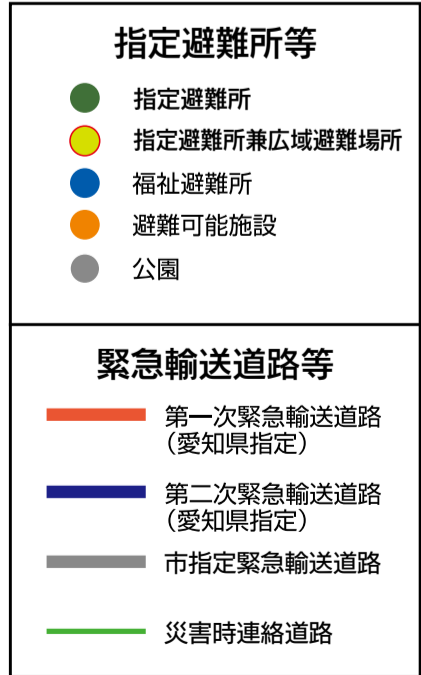
6弱

● 立つことが困難になる。
● 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものが多い。
● 倒壊しない家具が倒れることがある。
● 耐震性の低い木造建築物は、瓦が落下したり、建物が傾いたり、中に倒れるものもある。

5強

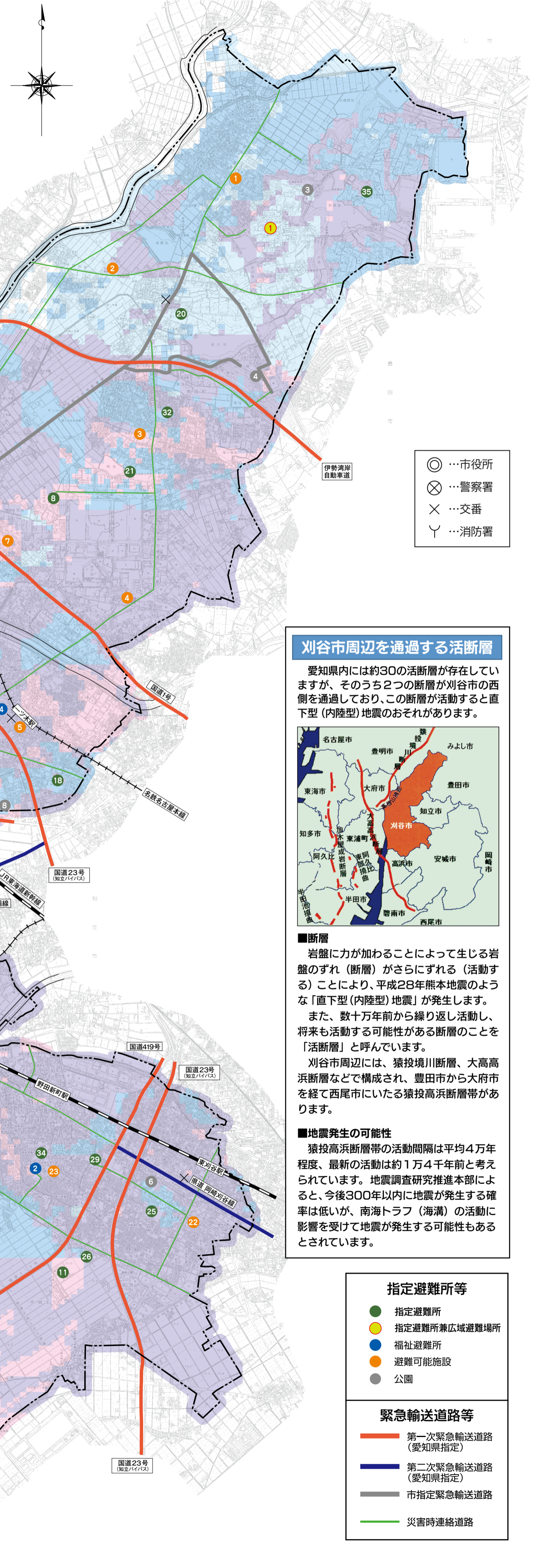
● 物につまもらない歩くことが難しい。
● 棚にある食器類や本が落ちるものが多い。
● 固定していない家具が倒れることがある。
● 揺れていないプロックが倒れることがある。

※マグニチュードは、地震そのものの規模を表しますが、震度は地震による揺れの大きさを表します。



土砂災害警戒区域(急傾斜地)
土砂災害特別警戒区域(急傾斜地)

解析: 岐阜大学副学長 杉戸真太による

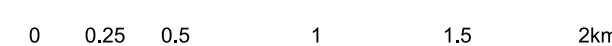
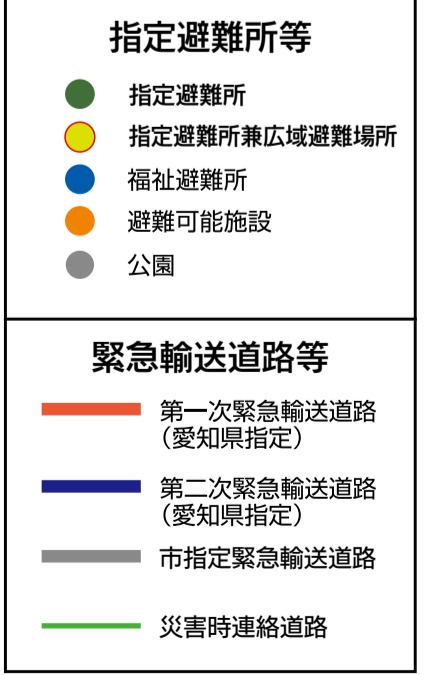


刈谷市周辺を通過する活断層

愛知県内には約30の活断層が存在していますが、そのうち2つの断層が刈谷市の西側を通過しており、この断層が活動すると直下型(内陸型)地震のおそれがあります。



- 断層
岩盤に力がかかることによって生じる岩盤のずれ(断層)がさらにずれる(活動することにより、平成28年熊本地震のような「直下型(内陸型)地震」が発生します。また、数十万年前から繰り返し活動し、将来も活動する可能性がある断層のことを「活断層」と呼んでいます。
刈谷市周辺には、猿投境川断層、大高浜断層などが構成され、豊田市から大府市を経て西尾市にいたる猿投高浜断層帯があります。
- 地震発生の可能性
猿投高浜断層帯の活動間隔は平均4万年程度、最新の活動は約1万4千年前と考えられています。地震調査研究推進本部によると、今後300年以内に地震が発生する確率は低いが、南海トラフ(海溝)の活動に影響を受けて地震が発生する可能性もあるとされています。



解析: 岐阜大学副学長 杉戸真太による